

食と緑の

西三河地域レポート 2023

－ 食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして －

（2022年度の実績報告）



2023年9月

目 次

1	食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	重点推進事項の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2
（１）	農業の担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・	2
（２）	産地戦略による農業生産力パワーアップ・・・・・・・・	3
（３）	地域営農と農業生産基盤整備の促進・・・・・・・・	4
（４）	資源を生かす林業の実現・・・・・・・・・・・・・・・・	5
（５）	持続可能で活力ある水産業の実現・・・・・・・・	6
（６）	農産漁村の防災・減災対策の推進・・・・・・・・	7
3	「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況・・	9
○	地域トピックス ～明治用水頭首工で復旧進む～・・・・・・・・	14

表紙 写真の説明



畜産クラスター事業 乳牛飼養管理施設整備（刈谷市）



防災ダム事業 岩ヶ池（刈谷市）



貝類の入札販売の様子（西尾市）



谷止工（鋼製自在枠）（岡崎市）

1 食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、現在は第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定・公表しました。

西三河農林水産事務所では、この基本計画の目指す姿の実現に向け、西三河地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、西三河地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画の推進とともに地域として重点的に推進しています。

この食と緑の西三河地域レポートは、プランの重点推進事項を的確に推進するため、プランの進行管理の一環として、2022年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。

「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の基本理念

- 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。



2 重点推進事項の取組状況

重点推進事項 1：農業の担い手の確保・育成

地域農業の将来を支える新規就農希望者を始めとした意欲ある人材の確保と育成に取り組みました。

また、女性農業者の経営参画の促進や、家族経営協定の締結に取り組みました。

取組内容①

管内で就農を希望する者(個人 34 名、企業 3 社)の相談に対し、研修先の紹介、研修受講、就農計画の作成を支援しました。支援にあたっては、愛知県立農業大学校に設置された農起業支援ステーションと連携しました。また、新規就農者育成総合対策(就農準備資金)等受給者の研修状況の確認を行いました。さらに、新規就農者に対して、基礎的な技術・経営能力の習得・向上のため、集合研修「NBAセミナー」を開催しました。

これら幅広い取り組みにより、西三河地域の農業の将来を担う就農希望者・新規就農者を育成し、41 名が新規就農しました。



研修状況の確認



集合研修(NBAセミナー)

取組内容②

若手女性農業者を対象に「西三河女性講座」を開催し、延べ 36 名に対し農業経営や生産に関する基礎知識の習得を支援しました。さらに、個別指導により経営への参画を支援した結果、販売管理や生産管理など経営管理を担う女性農業者が増え、参画のレベルが向上しました。

また農業経営における女性や後継者の役割の明確化を支援した結果、16 戸が家族経営協定を締結(新規 9 戸、再締結 7 戸)し、締結農家数は 277 戸となりました。



女性講座(先進農家視察)



女性講座(簿記研修)

重点推進事項２：産地戦略による農業生産力パワーアップ

生産者、農協、市町等の産地関係者からなる産地活性化プロジェクトチーム（以下、「PT」という。）に参画し、産地戦略※の達成へ向けて、施設整備や担い手確保の取組などへの支援を行いました。

取組内容①

J Aあいち中央「なし」産地活性化・担い手確保育成プロジェクトチームを始め、管内のPT会議で助言を行うとともに、あいち型産地パワーアップ事業の活用等により、産地戦略の達成に向けた支援を行いました。

また、西三河地域産地活性化・担い手確保育成プロジェクトフォローアップ会議を開催し、J Aあいち中央の「なし」、J Aあいち三河の「いちご」、J A西三河の「いちご」及び「いちじく」の新規就農者の確保・育成の取組を始めとする産地戦略に基づく活動成果の発表を通じて、各PTと関係機関の情報共有や連携強化を図りました。



JAあいち中央「なし」PT 会議



フォローアップ会議での活動実績発表

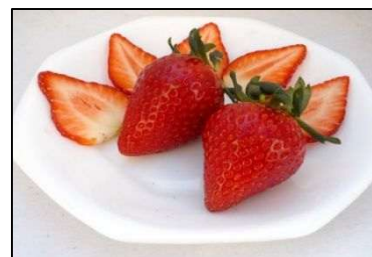
取組内容②

J Aあいち中央「なし」産地活性化・担い手確保育成プロジェクトチームにおいて、新規就農者の確保・育成のための取組である「梨塾」の開講に向けた協議や、生産基盤継承のための園地貸出希望者の把握を行い、新規就農希望者の受け入れ体制づくりに対する支援を行いました。

また、J Aあいち三河「いちご」産地活性化プロジェクトチームにおいて、新規就農者の確保・育成の取組である「いちご塾」に対する支援（令和4年度3名就農）の他、環境モニタリング・制御装置の活用によるスマート農業の実証、育苗作業の省力化に関する取組を支援しました。



いちご塾修了生（岡崎市）



いちご新品種「愛きらり®」のブランド化

※産地戦略：生産力の向上のため、産地・品目ごとに、「人」、「農地」、「生産技術」、「施設等」の観点から産地のめざす姿について取りまとめたもの

重点推進事項３：地域営農と農業生産基盤整備の推進

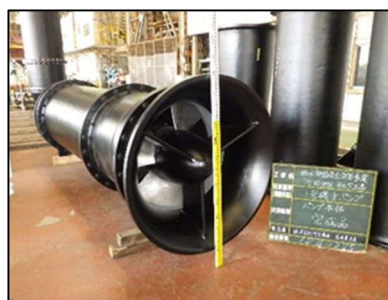
稲・麦・大豆の新品種導入やスマート農業の推進などによる生産性の向上と共に、担い手農家への農地集積・集約化や農地の大区画化、汎用化により、生産コストの削減を推進し、持続的な営農体制の構築を推進しました。また、農地や農業用施設の機能を維持するため、老朽化対策（更新整備）・長寿命化対策も併せて行いました。

取組内容①

水田の汎用化を推進するため、西尾市内の治明排水機場において、ポンプの分解整備、電気設備の更新、ゲート設備や除塵機の補修などの長寿命化対策を行い、ポンプの排水能力を増強しました。



損傷したポンプ



分解整備したポンプ

取組内容②

県のブランド米「愛ひとつぶ」において、人工衛星やドローンで生育状況を撮影し、出荷基準の一つである玄米タンパク質含量を予測する技術の精度の検証に取り組みました。

小麦では「きぬあかり」、「ゆめあかり」の品質及び収量の安定や、大豆では増収に向けた栽培技術の向上に取り組み、ドローンを用いた追肥の検討も行いました。

また、県農業総合試験場が育成し、耐暑性や病害虫抵抗性を有した水稻「愛知 135 号」について、管内での栽培適性や導入有用性を検討し、普及に向けた取り組みを行いました。



ドローンによる小麦の追肥



「愛知 135 号」

重点推進事項 4：資源を生かす林業の実現

資源を生かす林業を実現するためには、人材の確保と林業経営体の育成が不可欠であることから、林業経営体の人材確保及び育成を支援しました。

また、林業への理解の促進として、管内の林業系高校生を対象に林業経営体と協力して林業の仕事内容を知ってもらう見学会等を実施しました。

取組内容①

林業経営体の人材確保について、林業労働力確保支援センターと協力して「森林の仕事エリアガイドンス」などの人材確保イベントにおいて、来場参加者に林業経営体とともに林業の魅力などを伝えるとともに、不安に思っていることなどの相談に応じました。

また、管内の林業系高校である安城農林高校を対象に、林業経営体と協力して林業の仕事内容を知ってもらう見学会等を実施しました。

これらの取組などから、管内の林業経営体に令和4年度中に6人が就業し、令和5年4月には3人が就業しました。



森林の仕事エリアガイドンス



伐採を学ぶ高校生

取組内容②

林業経営体の育成について、(公財)愛知県林業振興基金が行う「森林整備工事参加事業体育成研修※」に参加する管内の林業経営体に対して、工事の受注から完了に至るまでの各工程において指導・評価を行いました。

また、実際の木材生産の現場では工程計測などを行い、生産性向上を支援しました。

※県工事の受注経験のない林業経営体が公告、入札、契約、実工事、監理図書作成などの業務を体験し、伐採などの発注工事を円滑に遂行できる能力を習得することを目的とした研修



研修の様子(1)



研修の様子(2)

重点推進事項 5：持続可能で活力ある水産業の実現

内湾における水産資源の増大と漁場環境の改善を図るため、干潟・浅場や貝類増殖場の造成を行うとともに、消費者に高鮮度の水産物を届けるため、漁協が行う製氷貯氷施設の整備を支援しました。また、あさりを始め7魚種の種苗を放流するとともに、あさりやかき養殖技術の導入を図るための実証試験を行いました。

取組内容①

西三河地区の干潟などでは、古くからあさり漁業が営まれていますが、ここ数年、あさり資源は大きく減少しています。これは、餌となる植物プランクトンの減少によってあさりの活力が低下したところに強い波浪等によってあさがり掘り起こされ、漁場に定着できなかったことが原因の一つと考えられています。

そこで、あさり漁場となる西尾市地先の浅海域に10～20 cm大の割ぐり石を用いた貝類増殖場を造成し、あさりの定着や成育を高める取組を行い、資源の増大を図りました。



造成した貝類増殖場



増殖場に定着したあさり

取組内容②

碧南市の大濱漁協では、いわし類を始め魚類を対象とした漁船漁業が営まれており、漁獲物の鮮度を維持するため、大量の氷を漁船に積み込んで出漁します。

大濱漁協の製氷貯氷施設は整備から30年以上が経過しており、十分な量の氷の供給ができない状態となっていたことから、県などの補助制度を活用して新たな製氷貯氷施設の建設に着手し、令和4年7月に新施設が完成しました。これにより、鮮度の高い水産物の安定供給を支える基盤施設が整うとともに氷の積込み時間の短縮により作業負担の軽減が図られました。



完成した製氷貯氷施設



製造された氷

重点推進事項 6：農山漁村の防災・減災対策の推進

大規模地震での安全性や豪雨耐性が不足する農業用ため池の決壊を防ぐため、対策工事を進めました。また、排水能力が不足する排水機場の更新を進めました。

森林において、荒廃するおそれのある溪流には治山ダムや流路工など、山腹崩壊のおそれのある斜面には土留工や法枠工などの治山施設を設置し、山地災害に対する防災機能の向上を図りました。

取組内容①

老朽化により排水能力が不足していた西尾市内の大岡排水機場では、降雨による農地等のたん水を防止するため、排水能力を増強した新たな機場を供用開始しました。

また、建屋や下部工等の構造物の耐震性能も現行基準を満たす構造となり、大規模地震が発生した場合の安全性も確保されました。



大岡排水機場(全景)



大岡排水機場(ポンプ施設)

取組内容②

大規模地震や豪雨により決壊の恐れがあった刈谷市の岩ヶ池では、地震対策として基礎地盤の改良と緊急放流工を新設しました。また、豪雨対策として堤体の嵩上げと洪水吐を改修することにより、頻発するゲリラ豪雨に対しても、流れ込んでくる水を安全に流すことができるようになりました。これらの対策により下流地域の防災・減災能力が大きく向上しました。



補強された堤体



改修後の洪水吐

取組内容③

岡崎市井沢町地内の山間部の溪流において、下流に存在する井沢町集落を始め、岡崎市簡易水道施設（取水施設）や県道岡崎設楽線を山地災害や土石流から守るため治山ダムを施工しました。

今回は、付近に取水施設があることから、水質に配慮した鋼製自在枠による治山ダムを計画し施工しました。

これにより溪岸が固定され、土砂の流出の発生が抑制されるとともに、取水施設への土砂流入の軽減に寄与しています。



治山ダム(鋼製自在枠)近景



治山ダム(鋼製自在枠)遠景

取組内容④

岡崎市板田町地内で交通量が多く、常盤南小学校の通学路にもなっている市道箱柳岩中線沿いの山腹において、林内に山腹崩壊が多数見られたことから、市道と通学路を保護するため、法枠工（簡易法枠）を施工しました。

法枠工により山腹の山脚が固定され、市道や通学路の安全が確保されました。

また、山林の伐採により視界が改善され通学路の安全が向上しました。



法枠工(簡易法枠)近景



法枠工(簡易法枠)遠景



3 「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況

(1) 農業の担い手の確保・育成

ア 新規就農者の確保

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	33人／年 うちJAあいち三河、JA西三河いちご産地における 新規就農者の確保・育成 各3人／年						
実績値	30	41					
うちJA あいち三河	10(3)	13(5)					(うちいちご)
うちJA 西三河	11(4)	18(10)					(うちいちご)

イ 家族経営協定締結数

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	285(30増／5年)						2020年 255
実績値	268	277					

(2) 産地戦略による農業生産力パワーアップ

ア 戦略を推進する補助事業の活用

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2件／年		4産地／年				
実績値	8(28)	6(14)					産地(件)

イ 新たな産地戦略の策定・実行

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2産地／5年						
実績値	2	3(1)					(単年度)

ウ あいち型植物工場の導入面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	10%増加／5年						2020年 38ha/168ha
実績値	0.4%増	2.3%増					

エ 畜産クラスター事業に参画する取組主体

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2戸以上／5年						
実績値	0	1					

(3) 地域営農と農業生産基盤整備の推進

ア 担い手への農地集積面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	11,236ha						2020年 9,322ha
実績値	9,537	9,572					

イー1 新品種の普及一稲「ミネアサヒSBL」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	250ha						
実績値	261	295					

イー2 新品種の普及—稲「愛ひとつば」・「愛知135号」等

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	150ha						
実績値	61	177					

イー3 新品種の普及—小麦「ゆめあかり」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	1,000ha		700ha				
実績値	899	932					

ウ 大豆の単収

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	20%増						2016～20の平均117.6kg/10a
実績値	(143.3) 22%増	(135.4) 15%増					2021～24は年度の単収 2025は4年間の平均値で評価

エ 農業生産基盤整備（新規）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	140ha/5年						2020年整備済面積11,919ha
実績値	0	0					

オ 農業生産基盤整備（再整備）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	3,366ha/5年						
実績値	132	864 (732)					(単年度分)

(4) 資源を生かす林業の実現

ア 管内木材生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	12,000m ³ /年						2016～19年の平均 10,855 m ³ /年
実績値	13,409	12,780					

*年次集計のため、実績値は、各年度 12 月末現在の数値

イ 森林経営計画新規策定面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	700ha/5年						
実績値	335.7	491.8 (156.1)					(単年度分)

ウ 木材生産に寄与する搬出間伐面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	57ha/年						2016～19年の平均 51.5ha/年
実績値	54.3	59.4					

(5) 持続可能で活力ある水産業の実現

ア 西三河地区の海面漁業及び海面養殖業生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2万トンの維持						2016～18年の平均 19,922 トン
実績値	10,607	10,173					

イ 干潟・浅場及び貝類増殖場造成による漁場生産力の強化

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	5か所以上/5年		10か所以上/5年				
実績値	3	6 (3)					(単年度分)

ウ 漁業者によるあさり等の海産種苗の放流

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	7種/年						
実績値	7	7					

(6) 農山漁村の防災・減災対策の推進

ア 農業用排水機場、ため池等の更新・整備

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	受益面積 1,147ha/5年 内訳 基幹的排水機場 11か所 防災重点ため池 10か所						
実績値	132	489 (357)					(単年度分)
基幹的排水機場	1	4 (3)					
防災重点ため池	3	4 (1)					

イ 治山施設の整備による防災機能の向上面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	200ha/5年						
実績値	40.2	83.3 (43.1)					(単年度分)

～明治用水頭首工で復旧工事進む！～

令和4年5月に豊田市水源町及び室町の明治用水頭首工において発生した漏水事故について、これまでの復旧状況等をまとめました。

昨年度は、事故発生後、農林水産省や関係機関による応急ポンプ等の設置により農業用水の供給を再開する対応を行ってきましたが、本県では「明治用水頭首工の漏水に伴う愛知県西三河地域用水確保対策本部」を立ち上げ、稲作農家の営農再開に向けた支援や、市町や土地改良区が行う中小河川などへの応急ポンプの設置等に対する支援について補正予算を措置しました。併せて、早期復旧及び農業者への支援について、国に緊急要請を行いました。

現在、農林水産省により、本復旧工事が実施されていますので、その概要を報告します。

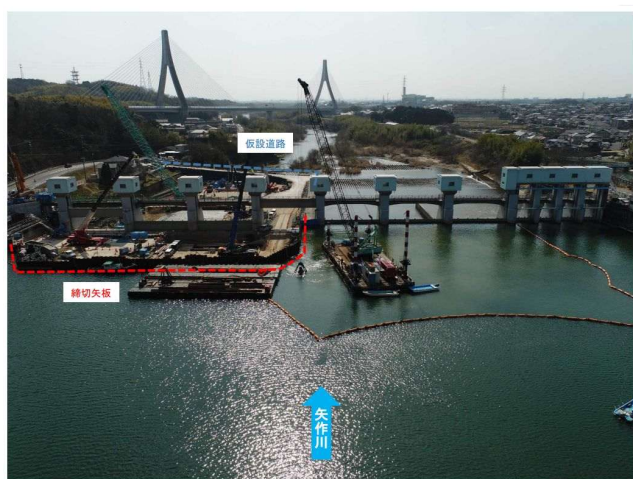
○本復旧工事の状況

本復旧工事は令和4年10月から着手され、これまでに左岸上流部の遮水壁の新設及び下流部のエプロン、護床工の復旧工事が実施されました。

また、農林水産省が設置した学識経験者を委員とする「明治用水頭首工復旧対策検討委員会」の第5回が令和5年3月14日に開催され、最も左岸側の堰柱及び洪水吐き堰体を撤去し、基礎から再構築する方針が示されました。

農林水産省では、検討委員会の意見も踏まえ、本年10月から、最も左岸側の堰柱（P1堰柱）及び洪水吐き堰体を撤去し、基礎から再構築する工事の実施が予定されており、令和7年度の完了を目指しています。

なお、本年度の用水の取水は大型土のうを設置し、水位を上昇させることにより、自然取水により安定的な取水が可能となっています。



令和5年3月10日 本復旧工事の状況



令和5年7月3日 大型土のう等設置による自然取水

○最後に

西三河農林水産事務所では、今回の経験を活かし、各課がそれぞれの分野において、農作物等の安定的な生産と供給に向けた支援をしてまいります。



食と緑の西三河地域レポート 2 0 2 3

—食と緑が支える豊かな暮らしをめざして—

2 0 2 3 年 9 月 発 行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町 1 - 4
電 話 0564-23-1211 内線 2436 (農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp



西三河農林水産事務所